

平成29年2月20日

浜田市議会議長 西田清久 様

議員名 佐々木 豊治



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため、視察を実施したので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成29年2月6日(月) 午前7時から
平成29年2月8日(水) 午後5時まで

2. 視察内容
 - ① 佐賀城公園の整備と歴史館の状況(佐賀市)
 - ② 唐津漁港高度衛生管理型市場の整備と課題(唐津市)
 - ③ 福岡城址の整備状況(福岡市)

2. 視察先 佐賀県庁・佐賀城公園・佐賀城本丸歴史館
唐津市舞鶴公園・唐津漁港市場・福岡市大濠公園

3. 調査経費 一人当たり 22,408円
(経費内訳 レンタカー代金・ガソリン代・高速料金・宿泊費)

4. 調査研究活動の概要

別紙



1、佐賀城公園の整備と歴史館の状況（佐賀市）

佐賀市は平成17年10月1日に佐賀市、諸富町、大和町、富士町および三瀬村が合併して誕生し、さらに平成19年10月1日に、川副町、東与賀町および久保田町と合併し、人口237,506人、面積431.84平方キロメートルの市となっている。中心部の長崎街道に代表される歴史遺産や佐賀城公園、日本の近代化を先導した「幕末維新期の佐賀」の魅力を紹介している佐賀城本丸歴史館、筑後川にかかる昇開橋や佐賀平野に広がる田園風景、豊饒の海といわれる「有明海」などの環境に恵まれている。特に観光面では、山間部にある観光りんご園、温泉、スキー場、また沿岸部における干潟の個性的な動植物など、多様な魅力を備えるまちとなっている。

平成27年5月には、渡り鳥のシギ・チドリ類飛来数日本一を誇り、紅葉する塩生生物「シチメンソウ」が自生する「東よか干潟」が、ラムサール条約湿地に登録され、平成27年7月には、日本初の実用蒸気船「凌風丸」が造られた「三重津海軍所跡」が、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」のひとつとして、世界文化遺産に登録されている。

対応していただいた担当の方々

佐賀県佐賀土木事務所田崎茂樹所長
佐賀県佐賀土木事務所街路公園課野口欣也課長
佐賀県立佐賀城本丸歴史館企画学芸課藤井祐介学芸員

【佐賀城公園整備について】

最初に佐賀県庁内にて、佐賀土木事務所の街路公園課野口欣也課長より、パワーポイントにて説明を受ける。

都市計画決定面積33.3haで、その内供用区域は28.8haとなっており、公園内には文化施設が点在しており、県立図書館、県立博物館、県立美術館、市村記念体育館、佐賀城本丸歴史館、佐賀城鯨の門などがある。

佐賀城は1602年、藩主、鍋島直茂・勝茂親子によって築城が始まり、完成後は幾度も火災に見舞われ、開場後は県庁や学校施設などの公共施設も建設されている。

昭和28年佐賀市の公園として計画され、昭和36年に佐賀県に移管。43年から整備に着手。

平成19年、「佐賀城下再生百年構想」を策定され、この構想を柱とし、取組が進められている。

百年構想は官民の共同により、100年後の孫の世代まで受け継がれるよう品格ある佐賀城下の再生をめざすとされ「佐賀城公園まち」をコンセプトに、歴史、文化、水と緑などを活かし、組織体制作りが進められている。

100年構想の展開として「二の丸プロジェクトエリア」ではハードソフト両面から取組が進められ、ハード面では公園整備で二の丸歴史館広場の整備、東堀の復元、佐賀レトロ館の整備など行っている。

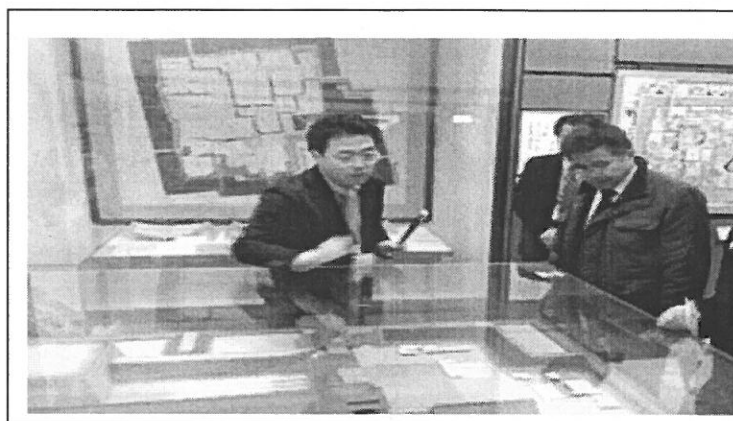
ソフト面では青空市やイベントなどが開催されている。

さがレトロ館は明治20年に警察庁舎として建設されたが昭和11年に現在地に

移転され、民間によるカフェレストランなどに活用されている。
濠のホテルとハスの再生への取組を進め、手漕ぎのどんこ船で観光客をもてなす。
また、佐賀城下絵図を読み解き場内をめぐる「佐賀城下探訪会」が鍋島報効会により開催されている。
生誕200年を記念した鍋島直正公の銅像（8m）が募金によって再建され、平成29年3月4日除幕式となっている。
現在、鯨の門周辺と東濠の復元を重点的に整備している。

【佐賀城本丸歴史館について】

昭和58年歴史資料館建設意向表明し、平成10年、佐賀市長より「本丸遺構と一体となった歴史資料館の建設」の要望が県になされ、平成16年8月に佐賀県立佐賀城本丸歴史館が開館した。
佐賀藩は35万石、外様大名で8番目の規模にあたり、十代藩主鍋島直正が1838年に再建した本丸御殿を忠実に復元した日本最大級の木造建築物である。



2、唐津漁港高度衛生管理型市場の整備と課題

浜田市産業経済部漁港活性化室石田室長・戸津川係長・田中主事
浜田市都市建設部建築住宅課佐古係長・平野技師の5人との合同視察

唐津市は、佐賀県北西部の位置にあり、市域は、東西約36km、南北約30kmに及び、総面積は約487.54km²で、佐賀県全体の約20%を占めている。
市の東部は福岡県糸島市、佐賀市、南部は多久市、武雄市、伊万里市、西部は玄海町、伊万里湾を隔てて長崎県松浦市に境界を接し、北部は玄界灘に面している。
また、東部は背振山系が唐津湾に向かってなだらかに傾斜し、中部は松浦川の流域に沿って平坦部が広がり、西部には丘陵地帯の上場台地がある。その地先をなす唐津湾は帯状の松原と砂浜が両翼に広がり、湾のほぼ中央に高島がある。

対応していただいた方々

佐賀県産業労働部流通通商課中西昭成係長
株式会社唐津魚市場常務取締役木下泉氏

【唐津港まき網改修整備について】

まき網市場を高度衛生管理型に改修することにより、水揚量のシェアと安全・安心の評価を向上させ、玄海地区水産物のブランド化を図る。

事業内容としては、元々同規模の市場があり、水産上屋として管理していたが40年経ち、老朽化が目立ってきた。そこでまず耐震の検査を行い、耐震には耐えうる結果がでたので、新築ではなく改修整備とした。

事業期間は平成26年度から28年度の3カ年。基本設計は24年度に行い、25年度に実施設計を行う。

国土交通省が平成20年に示した衛生管理基準を受け、水産物の国際競争力の強化と力強い産地づくりの推進のため、水産物の流通拠点となる漁港で取り扱われる水産物のうち高度な衛生管理対策の下で出荷される水産物の割合を23%から50%に向上させる目標を表明した。

「唐津港まき網市場」改修整備の状況としてはネットを使用した開放型で、床の清潔を保つ、床面の傾斜化とコーティング、セリ城内への車両進入防止構造、鳥糞による汚染の防止、衛生確保のための濾過殺菌海水供給施設の設置、施設洗浄のための十分な海水供給量の確保、営業しながらの工事のため3区画分けて改修。総事業費は18億1千6百万円で事業主体は県である。

【浜田市からの質疑】

質疑応答から以下の答えがありました。

魚体選別機は、国の補助金の関係で組合（生産者）の所有になっている。

県への唐津魚市場の年間使用量1500万円で、管理委託料は年間400万円の予定。

水揚げ手数料は4.5%、荷役料で120円、箱代110円、水揚高34億5千万円、水揚量2万3千6百トン。

建て替えの試算も行ったが、改修の方がメリットがあると判断した。

衛生管理は魚価に反映するため、唐津の市場は不衛生な市場だったので改築工事は進めたかった。

電気量・水道料は改修前とそんなに変わらないと思う。夏場の体感も下がると思う。

選別を行う任夫さんが少なく3台動かせない。70人ぐらい。



【所感】

今回の視察は浜田市で取組んでいる、「城山整備事業」と「歴史資料館建設」の視察を行ったものであります。

城山整備については、佐賀城の他、現地視察として2日目には唐津城、3日目は福岡大堀公園内の福岡城址を視させていただきました。

佐賀城公園整備は面積が広いため、整備する箇所を絞って行われておりました。県が行っている事業のため、規模は大きいものの、官民が一体となった取組に多くの観光客が訪れています。

鍋島公の大型の銅像再建も寄附によるものと伺い、市民愛されている人物像が浮かんでくるように感じたところです。

本丸資料館も規模が大きく県が直営で運営されており、入館料は無料となりました。

高度衛生管理型市場の整備については、浜田市において、計画策定がなされている状況で、今後の具体的な取組に対する疑問に答えていただき、参考になったものと思います。